

副反応検討部会における審議状況について (第3回予防接種・ワクチン分科会以降)

厚生労働省 健康局
結核感染症課 予防接種室
平成26年1月15日
第4回予防接種・ワクチン分科会

副反応検討部会委員名簿

所属は平成26年1月15日現在

△	稲松 孝思	東京都健康長寿医療センター顧問
	岡田 賢司	福岡歯科大学全身管理部門総合医学講座小児科学分野教授
	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所長
	熊田 聡子	都立神経病院神経小児科医長
	倉根 一郎	国立感染症研究所副所長
	藺部 友良	育良クリニック小児科顧問
	多屋 馨子	国立感染症研究所感染症疫学センター第三室長
	永井 英明	独立行政法人国立病院機構東京病院外来診療部長
	道永 麻里	公益社団法人日本医師会常任理事
○	桃井眞里子	国際医療福祉大学副学長

※ ○が部会長、△が部会長代理

(50音順・敬称略)

12月25日開催 副反応検討部会における 子宮頸がん予防(HPV)ワクチンの審議結果（概要）

○ 調査結果報告及び7名の参考人(実際に患者を診察している医師、中毒学、免疫学、認知行動科学、産婦人科学の専門家)からの発表を基に、以下のような審議がなされた。

1. 平成25年9月末までに報告されたHPVワクチン接種後に広範な疼痛又は運動障害を来した症例は130例であった(報告頻度:10万回接種あたり約1.5件)。
※この他に、医師の評価を経ていないが、保護者報告、被害者連絡会報告、文科省調査として、111例がある。
2. 報告された症例のワクチンとの時間的關係性は、接種直後に発症しているものから、接種後1年以上を経て発症しているものまで、きわめて多様である。
3. 急性疼痛の要因と、慢性化を来す要因は分けて考えることが適切である。
4. 海外においても同様の症例の報告はあるものの、発症時期・症状・経過等に統一性がなく、単一の疾患が起きているとは言えず、ワクチンの安全性への懸念とは捉えられていない。
5. 慢性疼痛及び多様な運動障害については、脳の障害によるものではないと考えられる。
6. 一部の症例では、治療による改善が見られる。



今回の議論を踏まえた論点整理を基に、積極的な接種勧奨の再開の是非について、引き続き検討することとされた(継続審議)。